

桂川だより

令和7年度
第1回学校評価特別号
京都市立桂川小学校
校長 佐久間 寧子



アンケート結果集計表

質問ごとの回答の「そう思う」を○、「大体そう思う」を●、「あまりそう思わない」を△、「そう思わない」を▲で表示しています。めざす子ども像（か・つ・ら・が・わ）ごとにまとめました。数字の上段は昨年2月、下段（太字）は今回の結果です。塗りつぶしの部分について、裏面に取り上げています。

第1回子ども育みアンケートの結果から

学校教育目標
「自ら課題を見つけ、
ひととかかわりながら
豊かな心とことばで達成する子」の育成

めざす子ども像
・目的意識をもち、意欲をもって解決しようとする子
・わかる喜びを知り、知る喜びを知り、自ら学ぶ子
・自分のおもいを、適切なことばで伝えられる子
・学び合える学習集団の中で自己有用感を持って育つ子
・互いの良さを尊重し、自分も他の子どもも大切にできる子

6月に実施しました第1回子ども育みアンケートの結果をお知らせいたします。

京都市の学校教育の重点、及び、本校の学校教育目標に照らし合わせた項目を設定し、「保護者」「児童」「教職員」それぞれの自己評価という形でのアンケートとしています。3者がそれぞれに自身
自身の取組やかかわりを振り返り、見直しの視点を明らかにするとともに、今後の取組の改善につ
なげられればと考えます。

	児童					保護者					教職員				
	質問項目	○	●	△	▲	質問項目	○	●	△	▲	質問項目	○	●	△	▲
①	勉強をするとき、「なんのために学ぶか」を考えている。	45	41	10	4	学校の教育目標や目指す子ども像について理解している。	19	70	10	1	学校教育目標が教職員間で共有され、日々の教育活動に活かされている。	41	52	7	0
②	難しいことにも「やってみよう」と思える。	56	34	8	2	わが子が目的をもって学習に取り組む姿が見られるようになってきた。	26	55	18	1	児童が自ら課題を見つけ、目的意識をもって学べる授業づくりに取り組んでいる。	33	63	4	0
③	自分の考えを言葉で伝えることができる。	39	38	17	5	わが子が自分の考えを言葉で伝える力が育っていると感じる。	30	55	14	1	児童が自分の考えを言葉で表現する場面を意図的に設けている。	37	63	0	0
④	毎日進んで家庭学習をしている。	36 40	38 35	21 18	5 6	わが子に、家庭学習する習慣がつくよう働きかけている。	39 38	53 50	9 11	0 0	日々の授業と連動した家庭学習課題を設定し、日々の点検をしている。	38 52	57 39	5 9	0 0
⑤	朝読書やそれ以外の時間にも、進んで本を読んでいる。	32 40	26 27	25 20	11 13	わが子が本をよく読むように読み聞かせをしたり勧めたりしている。	22 21	39 44	33 31	5 5	子どもに読書習慣が身につくよう、読書ノートを有効活用したり、子どもたちに声かけをしたりしている。	19 33	43 50	33 17	5 0
⑥	学校は楽しい。	63 65	25 24	7 6	4 4	わが子が楽しく通学できるよう、学校の出来事で楽しかったことを中心に家庭で話を聞くようにしている。	42 46	51 51	7 3	0 0	全ての子どもが楽しく学校生活を送れるよう、校内や教室の学習環境を整えている。	30 56	63 37	4 7	4 0
⑦	友達や先生、地域の方に、自分からすすんで挨拶をしている。	43 47	40 37	14 12	4 4	わが子が家庭や地域、学校で挨拶できるように声をかけている。	49 49	47 48	4 3	0 0	教職員自ら積極的に挨拶し、子どもたちにも声かけをしている。	59 63	37 33	4 4	0 0
⑧	友達と一緒に考えたり、助け合ったりしている。	54	34	10	2	わが子が友達と協力したり、互いを尊重したりする姿が見られる。	41	55	4	0	児童同士が互いに認め合い、協力して学ぶ場面を大切にしている。	33	59	7	0
⑨	友達の良いところを見つけたり、大切にしたりしている。	59	32	7	2	学校からの情報提供や家庭との連携が適切に行われている。	27	65	7	1	教職員が協力し合い、児童の成長を支える風土がある。	44	56	0	0
⑩	早寝早起きをし、毎日朝ごはんを食べている。	43 49	37 34	15 13	5 4	わが子が、早寝・早起きをし、毎日朝ごはんを食べるようにしている。	58 66	36 30	6 4	0 0	子どもたちが規則正しい生活が送れるよう、声をかけたり働きかけたりしている。	41 48	52 48	7 4	0 0
⑪	きまりや約束を守って楽しく生活している。	51 57	40 35	7 6	2 2	家庭でのきまりや約束を決め、守るように声をかけている。	53 56	44 42	3 2	0 0	子どもが、きまりや約束を守って生活することがみんなが気持ちよく過ごせることにつながると考えられるよう、実践を進めている。	41 48	52 48	4 4	4 0
⑫	自分のことは自分で決め、良い行動ができる。	40 49	47 40	8 8	3 3	わが子が、できるだけ自分で考えて正しく判断し行動できるように声をかけている。	38 41	58 57	4 3	0 0	子どもが自分で考え、正しく判断し行動できるよう支援している。	52 52	48 44	0 4	0 0
⑬						HP や予定表・参観日などから、学校の様子や教育方針が伝わっている。	22 25	69 71	7 4	0 0	HP や学級通信、懇談会などで、学校の様子や教育方針を保護者に伝えている。	40 28	44 56	12 16	4 0

アンケート結果について

・今年度は、学校教育目標、目指す子どもの姿と共に、子どもたちに育成すべき資質能力として、「挑戦」「表現」「つながり」を掲げ、日々意識して取組を進めています。3つの資質能力について、児童・保護者・教職員がどのように考えているのかを問う新たなアンケート項目を設定して実施しました。

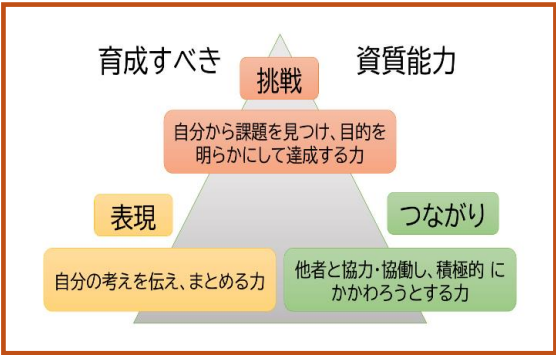
「挑戦」に関わるアンケート項目では、児童の「勉強をするとき、『なんのために学ぶか』を考えている。』では86%が「そう思う」「大体そう思う」と回答しました。「難しいことにも『やってみよう』と思える。」では、90%が「そう思う」「大体そう思う」と回答しました。子どもたちが日ごろから学習に前向きに取り組もうとする姿があり、アンケート結果にも表れたのではないかと考えています。子どもたちが目的意識をもって学習に向かえるよう、毎時間の授業のめあてを提示したり、子どもたちが学習の見通しがもてるような授業展開を計画したりしていきたいと考えています。



「表現」に関わるアンケート項目では、児童の項目「自分の言葉で伝えることができる。」で、77%が「そう思う」「大体そう思う」と回答しています。日々の授業の中で、子どもたちが自分の考えや思いを表現する場面を大切にしています。子どもたちの中には、言葉で伝えたり文章で表現したりすることに抵抗を感じている子も見られます。自分のおもいを適切なことばを使って表すことができるようじっくり聞いたり、自分のおもいにぴったりの言葉が選べるよう言葉を与えたりしながら最後まで聞いていただきたいです。

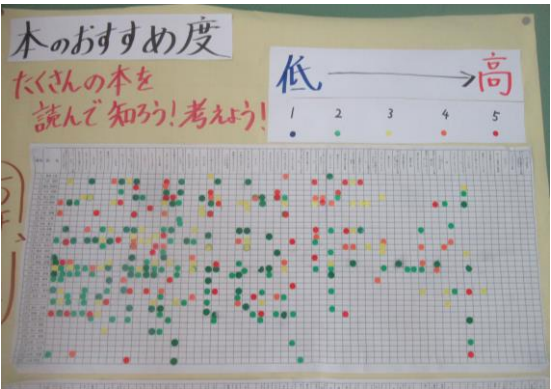
「つながり」に関わるアンケート項目では、児童の「友達と一緒に考えたり、助け合ったりしている。」では、88%が「そう思う」「大体そう思う」と回答しました。「友達の良いところを見つけたり、大切にしたりしている。」では、91%が「そう思う」「大体そう思う」と回答しました。多くの子ども達が友達を大切に、積極的にかかわろうと考えていることが結果から分かります。友達に優しく声をかける姿も、様々な場面で見られます。友達とのかかわりの良い姿を積極的に褒めたり認めたりすることを大切にして、共に学び合う姿へと高まっていけるようにしていきたいと思います。

また、保護者のアンケート項目「学校からの情報提供や家庭との連携が適切に行われている。」では、92%が「そう思う」「大体そう思う」と回答されました。時には、学校であった子ども同士のトラブルについて、教職員と情報を共有することがあるかと思えます。一人一人の子どもと丁寧に向き合い、家庭と一緒に考えていけるよう、今後も学校と家庭の連携を大切にしていきたいと考えています。



・児童の「朝読書やそれ以外の時間にも、進んで本を読んでいる。」の項目で、「そう思う」「大体そう思う」と回答した割合は67%で、前回と比べ9ポイント向上する結果となりました。一方で、「あまりそう思わない」と回答した児童は20%、「そう思わない」と回答した児童は13%と、進んで読書に取り組めない子や読書が苦手と考える子も多く見られます。

学校では、国語科の学習と関連する図書を学習で紹介する取り組みを進めています。教科書の学習教材に関連した本を学年で整備し、学年の廊下などの本棚にたくさん置いて、朝読書やすき間の時間などで子どもたちが手軽に本を手に取り、読めるようにしています。授業の中でも話題にしたり、表を活用して誰が何を読んだのかや、人気が分かるようにする活動もしています。読書離れが進む中、子どもたちが「読んでみようかな」と思える取り組みをして、少しでも本に触れる機会が増えることをねらっています。



学校運営協議会より

- ・毎週水曜日に「本のたね」の活動で読み聞かせをしている。様々な話の読み聞かせをすることで、子どもたちが普段は出合わない本にも出合えればと思っている。
- ・家庭での子どもの様子を見ると、最近では動画配信などを楽しむことが多く、読書に時間をなかなかとっていない。家族全員が読書に取り組む「読書タイム」を設定して、親も子と一緒に読書を楽しめるようにしている。
- ・登下校の安全の面からも、低学年のランドセルの重さが気になっている。重い荷物を大量に持って登下校する姿も見られ、時には心配になる。
- ・今年の夏は特に暑く、体育などでの熱中症対策が不可欠となる。安全に子どもたちが活動できるように考えることが必要ではないか。
- ・登下校の見守りをしていると、元気に挨拶をする子が多く見られるが、中にはいつも挨拶をせずに通り過ぎる子も見られる。お互い気持ちよく挨拶できるといいと感じる。また、下校時の通学路が、登校時と違うところを通して帰る子が見られ、安全に変えることができるか心配になる。

学校より

- ・保護者の方と一緒に子どもたちが読書に取り組むことで、子ども達もより読書が好きになると思います。学校でも家庭でも、子どもたちの本に触れる機会が増え、子どもたちが本好きになればと思います。
- ・子どもたちの日々の荷物の重さについて、持ち帰らずに教室においておく教科書を決めたり、長期休み前に少しずつ荷物を持ち帰るようにしたりして、少しでも軽減できるようにいます。今後も安全に登下校できるように、さらに工夫していきたいと考えています。
- ・夏の間の暑さが厳しく、子どもたちの熱中症予防のために暑さ指数を計測し、危険の場合は運動場などの活動を中止しました。危険となる日が多く、休み時間も外で体を動かせない日々が続いていました。PTAで購入していただいたUNOや、6年生が全クラス分作ったSDGsのすごろくなども活用し、教室で楽しく過ごせるように工夫しながら過ごしました。
- ・子どもたちが気持ちのよい挨拶ができるよう、学校でも挨拶の大切さについて引き続き話していきます。